

回想された父親の家事遂行とその評価が大学生の 性役割観に与える影響

-男子大学生を中心として-

○山村裕大・井神原憲治

(香川大学大学院医学系研究科)

問題と目的

父親の家事遂行が子どもの性役割観に影響を与えるか否かについて、その議論は分かれている。そして、父親の家事遂行と性役割観との関連を報告した先行研究で、父親が積極的に家事を行うことが、平等的な性役割観の獲得にどのような要因が媒介となって結びつくのかについて詳しく論じられたものは見られない。

そこで本研究では、過去の父親の家事遂行と現在の性役割観との関連を明らかにするとともに、その関連を説明する要因として、父親の家事行動に対する評価を仮定したモデルの検討を目的とした。

本研究における仮説は、父親が積極的に家事を行うことは直接的に平等的な性役割観の獲得に影響を与えるとともに、家事行動に対する評価を媒介として影響を及ぼし、女性より男性の方がその影響は大きいであった。

方法

調査期間 2020年11月、12月

調査対象者 大学生94名を対象として無記名質問紙調査を実施し、そのうち3名を除く91名(女性50名、男性41名、 $M=20.64$ 歳、 $SD=\pm 1.43$)を分析対象とした。

調査内容 本調査で用いた質問紙は、フェイスシート、家族の家事分担に関する質問、両親の就業状況に関する質問、父親の家事遂行尺度、父親の家事行動に対する自分の印象・自分の評価・母親の評価尺度、親子関係の認知に関する尺度(小林, 2014)、平等主義的性役割態度スケール短縮版(鈴木, 1994)で構成されていた。

結果

本研究における仮説を検討するため、パス解析を行った。その結果、男性において Figure1 に示す結果を得た。適合指標は $CFI=1.000$, $TLI=1.069$, $RMSEA=.000$ (90%CI[.000, .000]), $SRMR=.001$ で

あり、データに対するモデルの当てはまりは良いと判断された。また、すべてのパスは1%水準で有意であった。推定結果は Table1 に示す。次に、女性では適合指標は $CFI=.993$, $TLI=.969$, $RMSEA=.069$ (90%CI[.000, .258]), $SRMR=.053$ であり、データに対するモデルの当てはまりは良いと判断された。しかし、「自分の評価」および「父親の家事遂行」から「結婚・男女観」、「職業観」、「教育観」へのパスは有意ではなかった。仮説は性役割観と他の変数との関連を検討する目的で設定したものであるため、性役割観に対するパスが無かった時点で仮説は支持されなかったと判断した。

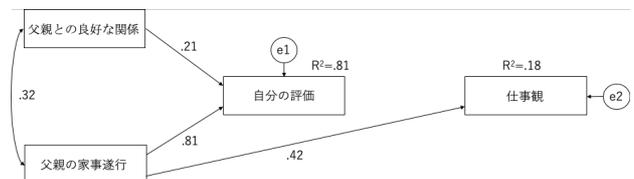


Figure1 男性についてのパス解析の結果(係数は標準化されたもの)

	Table1 男性についてのパス解析の結果				
	非標準化推定値	標準誤差	95%CI		標準化推定値
			下限	上限	
父親との良好な関係→自分の評価	.157	.053	.054	.260	.211
父親の家事遂行→自分の評価	.889	.078	.737	1.042	.813
父親の家事遂行→仕事観	.271	.092	.091	.451	.418

考察

父親の積極的な家事遂行がその評価を媒介として子どもの平等的な性役割観に及ぼすという仮説は、男女共に支持されなかった。一方で、男性において父親の家事遂行が直接的に子どもの職業観に影響を与えることが示唆された。同性の子どもにおいて、父親が家事をうまくこなしていないなどで評価や印象が悪くても、積極的に家事を行っている姿を行動で示すことで、平等的な性役割観の形成にポジティブな影響を与える可能性が考えられる。しかし、関連が示されたのは性役割観のうち職業観のみである。そのため、子どもの平等主義的な性役割観に影響を及ぼすものとして、父親の家事遂行とは別の家庭内要因や環境要因等が大部分を占めていることが考えられる。